

参加費無料

対話と学びの ワークショップ

～みなと芸術センター開館に向けて～

令和9年度(予定)にみなと芸術センターが開館します。

このワークショップでは、文化政策の専門家や、アートの分野で実際に活動している方々を講師として迎え、社会と芸術との関係について学ぶとともに、参加者同士の対話を通じてみなと芸術センターの役割を考えます。

事前申込制・全4回

開催時間：各回 午後6時30分～午後8時30分

2023年/2024年

- | | | |
|-----|----------|--|
| 第1回 | 11月9日(木) | 「入門・芸術文化と社会」
講師：片山泰輔（静岡文化芸術大学教授・みなと芸術センター統括参与） |
| 第2回 | 12月7日(木) | 「アーティストとの協働を知る ～生活と地続きの表現～」
講師：宮下美穂（NPO法人アートフル・アクション） |
| 第3回 | 1月12日(金) | 「対話の場を開く実践 ～プラットフォームとしての芸術文化～」
講師：林立騎（翻訳者・演劇研究者・那覇文化芸術劇場なは一と） |
| 第4回 | 2月9日(金) | 「公共文化施設に求められることを考える ～みなと芸術センターの役割～」
講師：藤野一夫（兵庫県立芸術文化観光専門職大学副学長） |

会場：芝浦区民協働スペース

定員：20名

対象：15歳以上の人
(区内在住、在勤、在学者優先で抽選)

参加条件：全4回のワークショップに
参加できること

申込方法：

申込フォームからお申込みください。詳細はこちら
(<https://artscommons.asia>) からご確認ください。

※応募者多数の場合は、港区在住・在勤・在学の方を優先の上、
抽選で参加者を決定いたします。

※ワークショップへのご参加の可否は10/27(金)までに
メールにてお知らせします。

募集期間：10月1日(日)～10月23日(月)

問合せ先：NPO法人 芸術公社

(サイト URL)：<https://artscommons.asia> (電話) 080-3936-6676 (祝日を除く 月～金曜 午前10時～午後4時)

(メール) artscommons.tokyo.inquiry@gmail.com

主催：港区

申込フォームは
こちら



プログラムスケジュール 各回 午後6時30分～午後8時30分

第1回 2023年 11月9日(木)

「入門・芸術文化と社会」 講師:片山泰輔

第2回 2023年 12月7日(木)

「アーティストとの協働を知る～生活と地続きの表現～」 講師:宮下美穂

第3回 2024年 1月12日(金)

「対話の場を開く実践 ～プラットフォームとしての芸術文化～」 講師:林立騎

第4回 2024年 2月9日(金)

「公共文化施設に求められることを考える～みなと芸術センターの役割～」 講師:藤野一夫



会場: 芝浦区民協働スペース
港区芝浦1-16-1(みなとパーク芝浦1階)

JR 田町駅東口徒歩5分
都営地下鉄三田駅 A6 出口徒歩6分
※現在 A6 出口は工事で利用できないため
A7 出口をご利用ください。

講師・ファシリテーター紹介

片山泰輔 (かたやま・たいすけ)

静岡文化芸術大学文化政策学部教授・みなと芸術センター統括参与。慶應義塾大学経済学部卒、東京大学大学院経済学研究科修了。専門は芸術文化政策、財政・公共経済。文化経済学会<日本>会長。公職として(公財)東京交響楽団評議員、(一社)浜松創造都市協議会代表理事、滋賀県文化審議会会長等。1995年、芸術支援の経済学的根拠に関する研究で日本経済政策学会賞(奨励賞)、2007年、『アメリカの芸術文化政策』で日本公共政策学会賞(著作賞)受賞。港区在住。



宮下美穂 (みやした・みほ)

美術大学でデザイン、農業大学で造園を学び、環境系シンクタンク、NPO で働く。その後ランドスケープデザイナーとして独立。並行して 2009 年に NPO アートフル・アクションの立ち上げ、運営に携わる。東京都小金井市、東京都、アーツカウンシル東京などと共催しつつ、市民の皆さんとアート、文化をきっかけにしながらさまざまな活動を展開。山間に拠点を移し、東京と往復。その中で見えてくる人と土地の関係について考え中。



林立騎 (はやし・たつき)

翻訳者、演劇研究者。現在、那覇文化芸術劇場なはと企画制作グループ長。訳書にイェリネク『光のない。』、レーマン『ポストドラマ演劇はいかに政治的か?』(以上、白水社)。2005 年より高山明の演劇ユニット Port B に、2014 年より相馬千秋の NPO 法人芸術公社に参加。東京藝術大学特任講師(2014-17 年)、沖縄アーツカウンシルプログラムオフィサー(2017-19 年)、ドイツの公立劇場ドラマトウルク(2019-21 年)を経て、22 年より現職。



藤野一夫 (ふじの・かずお)

兵庫県立芸術文化観光専門職大学副学長。神戸大学名誉教授。日本文化政策学会会長、(公財)びわ湖芸術文化財団理事、(公財)神戸市民文化振興財団理事、(公財)尼崎市文化振興財団理事ほか、国や自治体文化審議会等の委員を多数兼任。著書・編著に『公共文化施設の公共性:運営・連携・哲学』『基礎自治体の文化政策:まちにアートが必要なわけ』『市民がつくる社会文化:ドイツの理念・運動・政策』『みんなの文化政策講義:文化的コモンズをつくるために』(以上 水曜社)『地域主権の国 ドイツの文化政策:人格の自由な発展と地方創生のために』(美学出版)『ワグナー事典』(東京書籍)『ワグナー 友人たちへの伝言』(共訳、法政大学出版局)など。



ファシリテーター

戸籍正史 (とだて・まさふみ)

専門は文化政策、アートマネジメント。公共ホール、美術館、中間支援機関などでの勤務を経て 2018 年から 2023 年 3 月まで愛媛大学社会共創学部寄附講座「松山ブンカ・ラボ」ディレクター。みなと芸術センター研究機能専門参与、港区文化芸術活動サポート事業調査員、小金井市芸術文化振興計画推進委員会委員長、都民芸術フェスティバル(音楽部門)外部評価員などを務める。日本文化政策学会会員。共著に『芸術と環境』(論創社、2012)。

